



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

「6月21日は国際ヨガDAY ②」

国際ヨガDAY大阪城は、大成功であった。成功の秘訣は、若い力である。

「このおじさんは誰？」

わが輩が巻き込んだ若いヨガ教師（実行委員長）は、わが輩のことを全く知らなかった。

彼は淀川でリバーサイド・ヨガを実施している。わが輩の通勤路でもある。何回か挨拶をしたこともある。ところが全く彼の記憶に残っていなかった。

わが輩の存在を怪しんだ彼は、ヨガ業界の重鎮でもある実父に訊ねてみた。

「そんな名前の男は知らない」

またまた、存在が無視されてしまった。しかし、わが輩が主催した高名なヨーガ学者の講演会に、彼は参加していた。それにサギ事件に発展した会合に、わが輩は彼と同席していた。

(なんてオイラは影の薄い男なのか！)

わが輩のために嘆くことなかれ、読者諸氏よ。

ヨーガの秘伝とは、その存在を消すことである。

髭を生やしてみたり、美貌を誇ったり、先生やグルになりたがり屋では、その存在を消すことはできない。

再び、わが輩は言う。わが輩のヨーガの奥義とは、唯のおっさんになることである。

国際ヨガDAY大阪城の成功によって次年度への弾みがついたことは間違いない事実である。東京でもインド大使館主導で行われたが、大阪城ほどのインパクトはなかった。

そのことの大きな理由は、官製ではなく、離合集散型のヨガ・ピープル（ヨガ集団）の結合であったからである。

すぐさま、次年度は京都でという案が浮上してきた。さて、大阪城に匹敵する場所があるのか。

「京都なら、平安神宮よ！」

京女Aが叫び、浪花男（わが輩）が平安神宮に飛んだ。

大阪城にかわるシンボルは、朱色の大鳥居しかない。絵になる。

(でも、公共の参道が使えるの?)

雨天ならどうするか。参道の前に「みやこめっせ」（京都市勧業館）を見つけた。

(ここなら、雨でも大丈夫！)

京都大学の入学式にも使用されると聞いて安心した。仮契約をしたのが一年前の7月である。

わが輩は参道と「みやこめっせ」の併用案を考えていた。雨天で 1000 人ヨガができないときは、めっせで行うのである。これなら、大阪城のように公務員ヨガ行者に文句を言われることはない。

実はこの併用案が経済的な問題を生じさせた。めっせの施設使用料をどのように捻出するか、という大問題である。われらヨガ・ピープルは、一部を除き適度な貧乏人である。われらは単なるボランティアである。誰が責任をとるのか。

(そりゃ、実行委員長だろうね)

誰が委員長になるのか。

(だれもならないよ)

嫌がるもう一人の京女Bに、無理やり就任させるのがわが輩の役目となった。

これでわが輩の任務は終わり無罪放免。

「言い出しっぺが逃げ出すなんてあきまへん」

前委員長が宣った。その場の雰囲気逃げられずに副委員長を拝命した次第である。

「大丈夫！わが輩はじめ皆でサポートするから」

と、委員長就任を了承させたが、不運なことにわが輩は2月にインドで骨折してしまった。休養中に京女Bは難問を解決するために苦労苦労の連続であつたらしい。京女Aは熱意と秘策で、不可能かと思われた参道の使用許可をゲットしていた。

久しぶりに出席した会議で、

「もぉ、こんな苦労したのは大魔王のせいよ！」

京女Bが厳しい口調で責めてきた。

「そうや、そうや」

京女Aが同調した。

「京女さまのサーバントをさせていただきます」

遅くなった京女にタジタジとなり、つい口がすべってしまった。

骨折の治癒も進み、サーバント業に勤しんでいたある日、副総領事から電話があった。

「インドの国際ヨガDAYに行きませんか」

「Of course！ 行く行く、行きます！」

ところが、出発日は6月18日、つまり平安神宮ヨガDAYの日である。魔女のような京女A・Bの顔がクオリア（感覚の質）として浮かび上がってきた。（あな恐ろしや）

行くものは行かない。

行かないものも行かない。（ナーガールジュナの有名な詩頌）

この哲学的命題を用いて、わが輩がクオリアからいかに解放されたか、次回は語ろうではないか。